

かごしま桑振興会 熊本県視察

かごしま桑振興会の視察研修に同行しました。

はじめに、6次産業化の先駆的な農場で水俣市の「湯の児スベイン村福田農場」を訪問しました。約55年前、荒れ山だった山林を開墾し、花を植え、みかんを植え、そして子どもたちが遊びに来られるようにとの思いから始まった農園も現在では年間15万人の来園者が訪れています。高台から不知火海を見下ろす絶景を地中海になぞらえ、バレン



シアオレンジを甘夏におきかえ、水俣の風土とスペインとの共通点を見いだし「スペイン村」と銘打つていきます。農場では自社栽培の甘夏や巨峰などで青果として販売できないものをジュースやジャムに加工することで付加価値を付けていました。観光農園やレストランも併設し、今でこそ多く見られる経営形態ですが、再訪したいと思う魅力的な場所でした。福田農場の新たな取り組みに注目したいところです。

次に、常磐松シルクファームの桑畑を視察しました。常磐松シルクファームは熊本県宇城市と阿蘇山の麓に位置する菊池郡大津町にほ場を持ち、約120㍎の土地で桑の葉を栽培しています。桑事業を取り入れたのは3年目で、最初から機械での収穫を想定した栽培と、手作業で葉を落とすふたつの収穫方法を取っていたそうですが、今年からすべて機械による収穫に変えたためかなりの労力削減になったそうです。収穫はお茶の収穫機を利用しており、2、3名が手で持って収穫するタイプで、先端の10〜15センチ

ほどのところをカットし、年に7回ほど収穫しているようです。桑葉の乾燥もお茶農家が使わなくなった乾燥機を安価で購入し、経費節減に努めながら、栽培規模の拡大を図っているとのことでした。

かごしま桑振興会も発足から3年目を迎え、各会員との交流も深まってきています。また、他県の栽培方法等を知ること、更なる資質の向上や情報の共有化も図られてきています。今後ともかごしま桑振興会の会員としての役割を果たしながら、本町のシマ桑の認知度向上に向けた取り組みを強化していきたいと思えます。

かごしま桑振興会も発足から3年目を迎え、各会員との交流も深まってきています。また、他県の栽培方法等を知ること、更なる資質の向上や情報の共有化も図られてきています。今後ともかごしま桑振興会の会員としての役割を果たしながら、本町のシマ桑の認知度向上に向けた取り組みを強化していきたいと思えます。

かごしま桑振興会も発足から3年目を迎え、各会員との交流も深まってきています。また、他県の栽培方法等を知ること、更なる資質の向上や情報の共有化も図られてきています。今後ともかごしま桑振興会の会員としての役割を果たしながら、本町のシマ桑の認知度向上に向けた取り組みを強化していきたいと思えます。



所長 元栄 吉治

New books

話題の本、入荷しました!

『103歳になってわかったこと』

篠田 桃紅 / 著 幻冬舎
「いつ死んでもいい」なんて嘘。生きていくかぎり、人間は未完成。いつでも面白がる、平和な心を育てる、唯我独尊に生きる…。数えて103歳となった今も第一線で制作している美術家が、クリエイティブする力を明かす。



『家族という病』

下重 暁子 / 著 幻冬舎
日本人の多くが「一家団欒」という言葉にあらがれ、そうあらねばならないという呪縛にとらわれている。なぜ「家族」は美化されるのか。家族の実態をえぐりつつ、「家族とは何か」を提起する。



問 町立図書館 電話(93)4356

<http://www3.town.china.lg.jp/index.html>

